

## 英語学習の土台は、読解力。 貪欲に英語を身に付け、 真の国際人を目指してほしい。

表面的な英会話能力にとどまらず、内容のある大人の英語コミュニケーション能力の習得をテーマとするのが日米会話学院です。

同学院の学院長を務める大井 孝さんと、日本人で初めて国連入りした人物であり、国際活動の最前線で豊かな経験を持つ明石 康さんに、真の国際人養成に必要な英語学習について語り合っていました。

### ● 国際舞台で感じる、日本の英語教育に対する危機感とは？

**大井:** 本日は、これまで国際的な舞台で様々な活躍をなさってきて、現在も世界を駆け巡っていらっしゃる明石さんと、日本の英語教育と国際人養成についてお話ししたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

**明石:** 私も、大井さんとお話しできることを楽しみにしていました。最近、私が懸念しているのが、国際機関で働けるような本格的な英語力を身に付けた日本人

が少なくなりつつあるということです。

**大井:** 例えば、どのようなときに感じられるのですか。

**明石:** 海外で開催される国際的な会議に出席したときなどに、以前と比べて日本人や日本という国のイメージが希薄になっていると感じます。合意の形成のために、日本の立場から活発に発言する日本人も少なくなっているようです。グローバル化の時代、多くの日本企業が海外へ進出し、また日本で働く外国人の人々も増えていますが、ほんとうに日本人がそうした他の国や地域の人々と良いチームワークを組んで仕事ができているのか。真の意味の多国籍企業がつくられているのか。そうしたことに関連し、国際的な競争力が低下してきているのではないかと危機感を抱いています。

**大井:** その危機感を解消するためには、日本の英語教育のあり方を問う必要があるかもしれませんね。

**明石:** そうですね。私は教育の専門家ではありませんので、国際活動の最前線で多くの経験を積んできた

### 英会話に偏らない総合的な 英語教育こそ、真の国際人養成に 結びつくと信じています。

「日米会話学院」学院長  
大井 孝さん  
東京学芸大学名誉教授。財団法人国際教育振興会理事長。



者としての考えを述べさせていただきたいと思います。世界的なレベルで見ると、日本の初等教育、中等教育の全般的な内容については、まず問題がありません。しかし、英語教育についてはもう少し早い段階、例えば小学校の高学年くらいから始めるのがよいかも知れません。群馬県では小学校の先生たちがALT（ネイティブの外国語指導助手）の英語に積極的に接し、英語力を高める研修を始めています。そのようにして体制を整えたいうえで、初等教育、中等教育で、国際人育成の底辺をしっかりと広げていく英語教育が必要だと思います。

### 国際舞台で活躍するためには、 未知のものに挑戦する 強い意欲が欠かせません。

日本政府代表（スリ・ランカ平和機構及び復興・復興担当）  
明石 康さん  
元国際連合事務次長。



### ● 「読解力」中心の学習が、日本人の英語力の土台を築く。

**大井:** 日本の英語教育の方向が、かつては読解中心であった、読解偏重であったということで、最近では会話主体の教育に力点が移ってきた感があります。「コミュニケーション英語」という言葉がはやり言葉のようになっており、ネイティブのような発音で話す会話力の習得に重点が置かれていますが、私はむしろ英語で話す中身が問題だと思います。何をコミュニケーションするのか、どのレベルでコミュニケーションするのかが大切だと思います。

**明石:** おっしゃる通りです。レストランや喫茶店で外国人とコミュニケーションするためには、英単語の20か30もあれば十分です。問われるべきは、どのレベルのコミュニケーションを目指すかですね。国際舞台では、いくら滑らかに、美しい発音で話しても、話している内容が貧乏ければ、相手を説得することはできません。やはり、「読む力」「書く力」「聞く力」「話す力」のバランスが取れた英語力が必要です。日本の英語教育も、そのための教育を目指すべきだと思います。多少の

訛りがあっても、内容が素晴らしいものであれば、人は耳を傾けてくれるのですから。

**大井:** 明石さんご自身はどのように英語を習得されたのでしょうか。

**明石:** 秋田で育った私は、子どもの頃に外国人に接する機会がなく、東京大学の2年次の後半に初めてアメリカ人の教師に教えてもらう機会を得ました。最初は、そのネイティブの教師の英語が全くわかりませんでした。私の時代の旧制中学、旧制高校では、読解力と作文力に重点を置いていたため、聞く力、話す力が閑却されていたのです。しかし、そんな私も大学3年、4年と着実に英語力が高まっていきました。当時の私のことを、クラスメートで、現在は英文学者である行方昭夫さんが著書『英文快読術』の中で書いておられます。「新潟の雪深いところから出てきた小和田恒という男と、秋田の山奥から出てきた明石康という男は、大学へ入ってきたとき、英語のえの字もしゃべれなかった。しかし、英語の基礎はきち

んとやってきたらしくて、その後、長足の進歩を示した」と。誉められたのだから貶されたのだからわかりませんが（笑）、私も、現在は国際司法裁判所の判事である小和田さんも、高校までに読解力中心の勉強をしっかりやってきたことが、英語力の習得に結びついたのでと思います。

**大井:** 私が近年、強く感じていることが、まさにその点

にあります。昔の読解を重視した英語教育を再評価すべきではないかということです。しかし、最近の時計の振り子が逆に行ってしまうかのような英語教育となっています。

**明石:** その結果、日本の若い人たちは聞くことはある程度できるけれども、根本的な英語の力である作文、語彙、読解力が弱くなっていることは私も感じています。

英語力とは、「読む力」「書く力」「聞く力」「話す力」の総合力。

**大井:** 若い英語学習者は、英語とは英米人が話す言語と思い込んでしまっているようですが、英語はもはや「国際共通語」です。その意味で、ネイティブの人たちが話す英語だけが英語とは限りません。日本人が話す英語が英米人と同じ英語である必要はありません。

**明石:** 国連で使われている英語が、まさにそうです。グローバル化の時代は、ある意味で、それぞれの文化、アイデンティティを主張し合う時代でもあります。多少の訛りはアイデンティティの反映です。そういう訛りのある英語を国連の事務総長をはじめ、各国の人々が話しているわけです。自分の訛りについて、変に自意識を持ち過ぎることは無用です。また、英語コミュニケーション能力という点では、耳からの理解は確かに大事ですが、極端に言いますと100%耳から理解する必要はない。我々が日本語で会話していても、おそらくお互いに70%くらいは聞くことで理解できていると思いますが、残りの30%は推測で理解してい

ます。英語でも同様です。会話の中のキーワードさえ理解できれば、それを自分の頭の中でつないで全体を理解することができるわけで、その能力を身に付けることが大事なのです。

**大井:** 例えば、国連のような国際機関では様々な英語力が要求されると思います。最近ではメールを多用することもあり、内容のある英文を即時に書ける能力が重要なのではないのでしょうか。

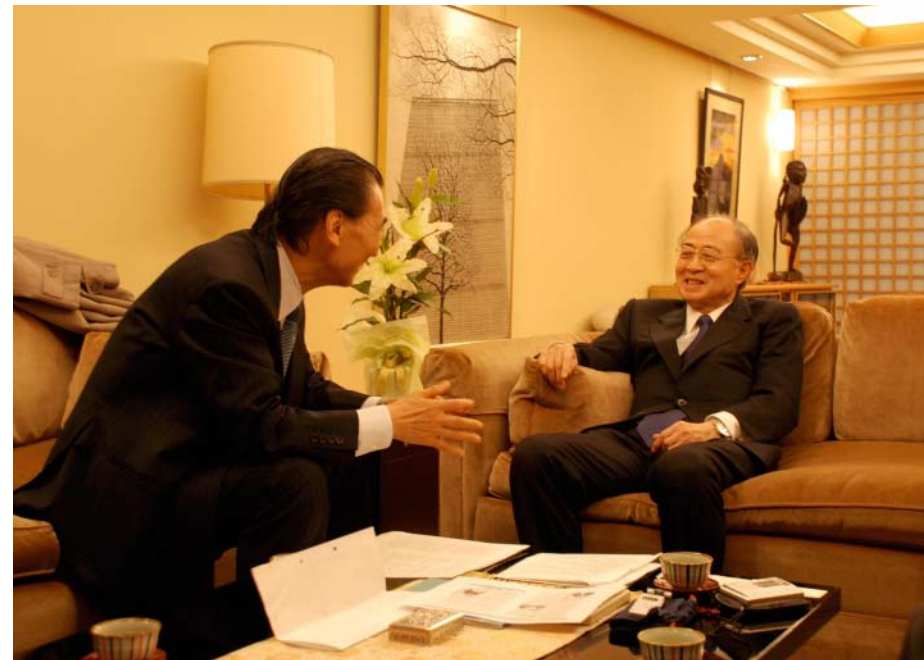
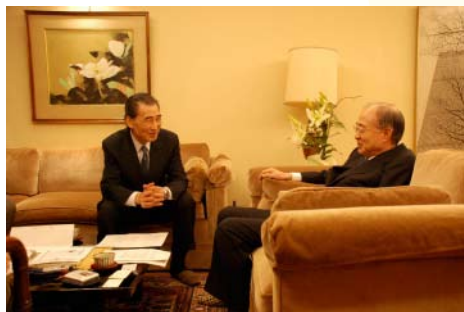
**明石:** どんなに発音が上手でも、きちんとした英文が書けないと、馬脚を露すことになってしまいます。正確で、自分の意思を100%表現できる、品格のある英語を書けることが決定的に大事なのです。国際機関などでは、正確な英語をできるだけ短時間に書く能力で、その人の評価のおよそ2/3は決まってしまうでしょうね。

**大井:** 書く力の養成のためには、読まなければいけませんね。多く読んで初めていい文章が書けるようになる。

**明石:** その通りです。特に、いい文章は暗記するくらい読み込むことをおすすめします。私の場合は、大学時代に英字新聞の社説を暗記して、英文と英会話のパターンを覚えていきました。

**大井:** 私は、音読をすすめています。音読することによって、頭の中に英語のリズムが養われますからね。

**明石:** なるほど。それはいい英語学習法です。本格的な英語の習得には、学校の勉強だけでは足りませんから、自分に合った英語を学べる環境を学外にもつくっていくことも大切です。私の場合は、大学2



年の後半に、同じように国際関係、国際政治への関心を持っている外国人たちと頻りに会って話す機会を持つことができました。初めの頃は論破されて悔しい思いをしましたが、そういう悔しさを克服するためにも英語学習に打ち込みました。

**大井:** 日米会話学院では、今後、大学生や若い社会人を対象とする「国際人の卵を養成する講座」をつくっていきたくと考えています。国際舞台で活躍するために不可欠な、総合的な英語力が身に付くクラスです。

**明石:** 日本人は、欧米にも学ばし、アジア諸国にも

学ぶ。そういう激しい意欲というものを失ったら終わりだと思います。やはり、いろいろなどころへ出て行って、多少のリスクを省みず、貪欲に学んでいくことが必要です。私の言うことは時代遅れかもしれませんが、しかし、明治時代の日本人がそうであったように、やはり未知のものに挑戦する強い意欲を持つが持たないかが分れ目だと思いますね。

**大井:** これからも、明石さんにアドバイスをいただきながら、日米会話学院を真の国際人養成の場にしていきたいと思っています。本日は、ほんとうにありがとうございました。

<p><b>日米会話学院</b> 1945年設立 英会話学習からプロ通訳者・翻訳者養成まで <b>日本語研修</b> 初級日本語からビジネスプレゼンまで</p>	<p><b>国際交流事業</b> ●外国人による日本語弁論大会【NHKで放送】 (2008年6月14日(土)川崎市にて開催) ●日米学生会議(2008年は米国で開催)他</p>
<p><b>IEC 財団法人 国際教育振興会</b></p>	
<p>www.nichibei.ac.jp TEL03-3359-9621 info@nichibei.ac.jp</p>	
<p>2008年4月より 四谷新校舎 (JR四ツ谷駅より徒歩3分) 2008年3月まで 飯田橋校舎 (JR飯田橋駅東口より徒歩4分)</p>	